

子どもに否定的なことを言うと できない子になる

「ユー・キャン・ドゥ・イット(きみはできる)！」
 子どもの教育とは、まさに子どもに向かってこう呼びかけることです。
 つまり、100%自己肯定をしてやることです。

あるお母さんが、「うちの息子は無気力で、いつもダラダラしてスマートフォンをいじってばかりで」と嘆いていました。

「勉強しなさい」と注意すると、「勉強しろと言われたから、勉強しない」とわけのわからない理屈をこねます。さらに強く迫ると、彼は突然暴れ出し、手がつけられなくなるというのです。

しかし、このお母さんは口だけはとても元気です。

「バカじゃないの、こんな成績とってきて」

「あなた落ちこぼれじゃない。ああ、お母さんは恥ずかしい」

実は、彼女は息子に向かって、「ユー・キャン・ノット・ドゥ・イット(きみにはできない)」と叫び続けていたのです。

息子を無気力にさせ、情緒を不安定にさせていたのは、ほかならぬ彼女の否定的な言動だったのです。

このお母さんばかりを責めることはできません。彼女は息子のためにきびしい言葉を口にして、「それなら猛勉強してやる」という奮起を期待したのです。しかし、その期待はみごとに裏切られました。息子にとって母の言葉はただの罵詈雑言ばりぞうごんです。なんの役にも立たなかったばかりか、すっかり無気力にさせてしまいました。

さて、ここで、やる気をなくした彼の心理メカニズムにふれてみましょう。人は、学習行為によって新しい知識を吸収し、徐々におとなになっていきます。